

## Q5

人権感覚の育成に深く関わる「技能的側面」とはどのようなことですか。

**A** 自他の人権を尊重していくためには、人権感覚の育成が重要です。そのためには、さまざまな技能の助けが必要です。

### 【人権感覚の定義】

【第三次とりまとめ】では、「人権の本質やその重要性を客観的な知識として知るだけでは、必ずしも人権擁護の実践に十分であるとはいえない。人権に関わる事柄を認知的に捉えるだけではなく、その内容を直感的に感受し、共感的に受けとめ、それを内面化することが求められる。そのような受容や内面化のためには、様々な技能の助けが必要である。」そして、こうして獲得された様々な技能が「人権感覚を鋭敏にするのです」（在り方編P6）と述べています。以下では、このうちの三つの技能について、具体的にとりあげます。

### 【コミュニケーション技能】（在り方編のP6とP7の図参照、以下同じ）

相手の話を傾聴し、自信を持って適切な自己表現を可能とするコミュニケーション技能は、自分の大切さと他者の大切さを認めるうえで不可欠な技能です。このような技能が磨かれることで、他の人の立場を理解し、その人の考えや気持ちを理解することができ、他者理解や共感という感性は育まれます（実践編P30参照）。

### 【合理的・分析的に思考する技能や偏見や差別を見きわめる技能】

複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公平で均衡のとれた結論に到達する技能や、人間関係のゆがみ、ステレオタイプ、偏見、差別を見きわめる技能など複数の技能が考えられます。これらの技能は様々な教育活動の中で育むことができます。また、児童生徒の発達段階と深い関係があるため、どのような技能を児童生徒に身につけさせるべきか、ねらいをしばった取組が必要です（実践編P54,P57参照）。

### 【協力的・建設的に問題解決に取り組む技能】

自他の要求を共に満たせる解決方法を見出し、それを実現させる技能は、「他の人とともによりよく生きようとする」「集団生活の基盤を形成し、義務や責任を積極的に果たそうとする」ことと結びつき、人権感覚の育成にとって大切な技能の一つです（実践編P33参照）。

人権感覚の育成に深く関わる技能的側面は、学校での計画的な取組によって身に付きます。すでに多くの学校では、異校種間での連携により、継続的な取組がされています。今後も、学校教育全体が、人権感覚の技能的側面を磨くという視点で、計画的に取り組まれているかどうか、見直してみることが大切です。

### ふりかえり

自校の児童生徒には、どのような技能が育っていて、また、今後育成すべき技能はどのような技能ですか。

**【目的】**

対立や争いごとの解決法がわからず、しばしば深刻な結果を生むことがある。3つの解決法を示し、それぞれが関係者にどのような影響を与えるかを考え、実際生活の中でその成果を生かせるようにする。

児童生徒の学習活動として紹介されている研修例であるが、教職員の研修に利用することで、児童生徒の学習を円滑に行えるようにするとともに、教職員自身が対立的な問題を非暴力的で、双方にとってプラスになるように解決する技能についての理解を深めることを目指す。

**【研修の進め方】**

(1) 対立や争いごとには3つの解決法が考えられることを説明する。

- ①どちらも益を得られない解決法
- ②一方だけが他方を犠牲にして益を得る解決法
- ③お互いが益を得る解決法

(2) それぞれの解決法を例えば次のような例話で説明する。

「日曜日に、友達と遊びに行くために待ち合わせすることにしました。しかし、約束の時間になっても友達は現れませんでした。やって来たのは1時間後。遅れてきた友達は携帯電話の電池も切れており、連絡もできなかったようです。しかし、結果的に今日の遊びの計画は台無しになり、あなたは、すごく怒っています。

遅れた理由も確認もせず、遅れた点だけを非難することは、お互いの関係を壊しかねず、①のどちらも益を得られない解決法といえます。

次に、1時間待った側が、遅れた理由も確認もせず、遅れても自分は気にしないと言ってしまうのは、②の一方だけが犠牲になる解決法です。

最後に、遅れた理由をきちんと確認し、「自分は今日の計画が行えず残念だと思っていること」等自分の思いを明確に伝えることは、相手も遅刻の理由を説明する機会を得るとともに、待った側も自分の考えを伝えることができていることで、③の解決法と言えます。

- (3) グループに分かれ、自分たちがどんな対立や争いを経験したことがあるか振り返る。家庭や学校からはじまって、社会で起きた出来事などについても意見交換を促す。
- (4) (2)の例話になぞらえて、それぞれの経験における当事者の誰がそのときの解決方法から益を得たかを分析し、お互いが益を得る解決法は何かを考える。
- (5) 全体会で発表する。